



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地春まき			①		①							
露地秋まき									①		①	
トンネル栽培	①									①		

① 種まき トンネル被覆 ① 収穫



シュンギク（キク科シュンギク属）

シュンギクの花を見たことがありますか。

果菜類は花が咲かないと実が付きませんが、葉菜類や根菜類は花が咲いてしまうと収穫に至りません。普通の栽培ではシュンギクの花を見ることはありません。秋まきしたシュンギクを春まで残しておくと、黄色や半黄半白の美しい花が咲きます。シュンギクはもともと花を觀賞する植物で、食用としているのは東アジアだけです。

シュンギクの収穫方法には、根を付けて抜き取り収穫する「抜き取り収穫」と、脇芽を摘み取り収穫する「摘み取り収穫」があります。「抜き取り収穫」は関西で、「摘み取り収穫」は関東で多く行われています。

シュンギクの品種は大葉種、中葉種、



小葉種に分類されます。「お多福」などの大葉種は主に関西以西で栽培され、脇芽の出が良くないため「抜き取り収穫」されます。全国各地で栽培されている中葉種は、「抜き取り収穫」には株元からの分枝が多い株張り型品種が、「摘み取り収穫」には節間が長く伸びやすい品種が使われています。キッチンガーデンには、脇芽を次々と収穫でき、栽培期間が長い「摘み取り収穫」が適しています。

シュンギクは発芽も生育も適温が15〜20度で、日当たりの良いベランダなら3月から10月まで種まきすることが出来ます。深さ15cm以上のプランターに市販の培養土を入れ、条間15cmに筋まきします。好光性種子なので薄く覆土し軽く押さえ、たっぷり水やりします。発芽するまで乾燥させないようにし、発芽したら順次間引きし、本葉4〜5枚のときに株間15cmにします。追肥は1000倍の液肥を1週間置きに施します。

草丈が20〜30cmになったら、下の方の葉を4〜5枚残して株の上部を摘み取り、脇芽を出させます。脇芽が15cmくらい伸びたら順次収穫していきます。

JAグリーン
津店が教える！
シュンギク
栽培のポイント！



JAグリーン津店 城チーフ

〈病気〉

病害の発生は少ない方ですが、べと病には注意が必要です。べと病は湿度が高いときに発生しやすいので、水はけを良くしたり、できるだけ早く薬剤を使用して防除しましょう。

Zボルドー銅
水和剤が有効です。



〈豆知識〉

シュンギクはキク科特有の香りがアブラナ科につく害虫を防ぐ効果があるため、防虫のためのコンパニオンプランツ（混植）にもおすすめです。

〈保存方法〉

収穫したシュンギクをおいしく長持ちさせるため、保存するときは濡れた新聞紙で包んでポリ袋などに入れて冷蔵庫で保存しましょう。立てて保存しておくと、さらに傷みを遅らせることができます。

ニラ

あなたも今日から 栽培名人

板木技術士事務所 板木利隆

栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培 (春まき)			①	②		③						
トンネル 栽培			①	②		③						
露地栽培 (秋まき)						①			②			

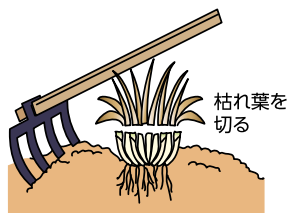
① 種まき ② 植えつけ ③ トンネル被覆 ④ 収穫



ニラは早めの株分けと更新

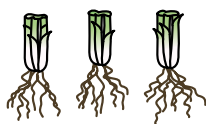
肉との料理の相性が良く、スタミナ料理などに親しまれるニラは、多年草で一度植えておけば、毎年、年に数回収穫できるので、家庭菜園に適した野菜といえます。しかし、いくら強いといっても2〜3年取り続けると、株が密生気味となり、幅広で厚みのある良い葉が収穫できなくなってしまう。そうなる前に早めに株分けし、更新するのが得策です。

株分けに一番良い時期は、葉が枯れ根株が休眠状態に入っている冬の間です。この頃は根に栄養が十分蓄えられているので、断根や株の分割という荒療治をしても、痛みが少なく、作業がしやすいからです。



力を入れて大きく掘り起こす

株分けの方法は、まず地上に残っている枯れ葉を、5cmぐらいの高さで、鎌できれいに刈り取ります。そして株の周りにくわかスコップを大きく打ち込んで、根株を土から掘り起こします。根は強大で、密に広範囲に広がっているの、全てを一気に掘り取れないので、途中で縦に切断しても構いません。

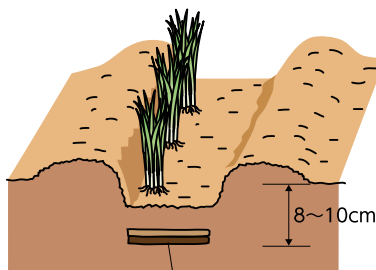


指先で2〜3本ずつに分割する

3本ずつに分割します。これを2〜3個まとめて、20〜25cmの株間に植え付けます。

植え溝は事前に、8〜10cmぐ

らいに深めに掘り、元肥として堆肥や油かす、緩効性の化成肥料などを十分に施しておきます。



元肥

す。植える際には、根株を束ねないで、平置きにするように心掛けましょう。

溝は深めに掘って植えた根株を換気や乾燥からも守ってやります。覆土は株の上部がやや出るくらいにとどめておき、やがて新葉が伸びだしてきたら、葉先を埋めないよう注意しながら、2回ほど覆土をして、溝が埋まるように管理します。

そうすると春には見違えるほどに、勢いの良い、良質なニラになります。

株が増えてきたら銀色のフィルムを畝上に二重掛けし、さらに黒色フィルムで覆い、黄ニラに育ててみるのも楽しみです。なお、販売用の高品質な物は、毎年種まきして育てた苗を植えて、年間随時販売する物で、通常古株は利用しません。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

農業PR隊長カツラギ通信は ホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信

検索

みてね!



カツラギ

PHOTO GALLERY

